

【論考】

## 豊かさと文具

### ～フィリピンの事例との比較にみる文房具の優先順位～

奈良女子大学 文学部

中井 愛実

－目次－

1. はじめに
2. 文房具を十分に手に入れることができない国の状況
  - (1) 調査に至る経緯
  - (2) フィリピン・ミンダナオ島グアダルーペの聖母公立高校(Our Lady of Guadalupe National Highschool 旧バクリン公立高校)について
  - (3) 同校生徒の文房具入手・所持状況等調査
3. 日本の状況:大学生への試行的調査より
4. おわりに

#### 1. はじめに

みなさんの筆箱の中にはどのような文房具が入っているでしょうか。鉛筆や消しゴム、定規、ハサミ、もしかしたらマスキングテープまでも入っているかもしれない。では、その中から1つしか筆箱の中に入れられないとしたらどれを選ぶだろうか。私なら鉛筆を選ぶし、多くの人がそうではないかと思う。

では、2つや3つになったらどうか。この辺りから意見が別れるのではないだろうか。我々は普段文房具に困ることはないだろうが、果たして文房具が十分に手が入らない国ではどの文房具が優先的に求められているのか。それを今回取材が可能になったフィリピンのある1校に限ってではあるが、子供たちの学習の場について調べていこうと思う。

#### 2. 文房具を十分に手に入れることができない国の状況

##### (1) 調査に至る経緯

文房具を十分に手に入れることができない国の状況を調べるために、まず日本から文房具を寄付している団体を調べた。多くの団体があることがわかったが、その中で今回は、NPO 法人フ

リー・ザ・チルドレンを選ぶことにした。寄付先について話を伺ったところフィリピンで支援を

ミンダナオ島マラウィ市内の小中学校

<https://ftcj.org/archives/4703>

ミンダナオ島ビナンシャン村の小学校

<https://ftcj.org/archives/4723>

フィリピンレイテ島のバリオン小学校

<https://ftcj.org/archives/4745>

ミンダナオ島バクリン公立高校（報告抜粋下記参照）

<https://ftcj.org/archives/4742>

■フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、フィリピンのミンダナオ島ダバオ・オリエンタル州バガンガ地方にあるバクリン公立高校農業科の支援を現地パートナー団体を通じて2016年8月~2017年3月末までの期間、支援を行いました。

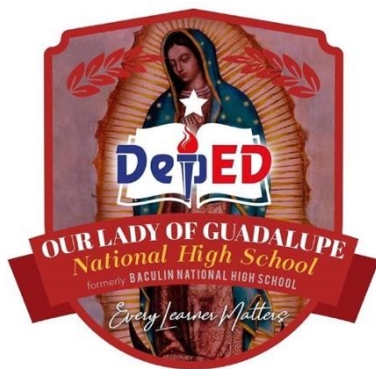
■背景：バクリン高校のあるダバオ・オリエンタル州バガンガ地方は2012年にミンダナオ島を直撃した大型台風の被害が大きかった地域の一つで、土砂災害や突風、洪水によって農作物や家畜が悪影響を受け未だに住民は収入手段に困っている状況にあり、住民が利用できる資源やサービス、教育は非常に乏しく限られており復興途中にありました。こういった背景から、バクリン高校に通う生徒50名、教員3名を対象として支援事業を実施しました（後略）

行った(もしくは行なっている)学校の例として左記をお教えいただいた(URLは各支援内容の報告ページ)。

この中から後述の日本の大学生の実態と比較するために、近い年代であるミンダナオ島のバクリン公立高校に調査依頼することに決めた。しかし、このバクリン公立高校の情報がどうしても得られなかったため(後にバクリン公立高校は旧校名であったためだとわかる)、在ダバオの日本領事館に連絡先を伺ったところ、ありがたいことに旧バクリン公立高校の担当者の連絡先を教えてください、ようやく取材依頼が可能となった。

## (2) フィリピン・ミンダナオ島グアダルーペの聖母公立高校

(OurLadyofGuadalupeNationalHighschool 旧バクリン公立高校)について



こうして連絡を取ることができたのは、同校の DARLENE FERRANDO-PACATANG 先生である。やり取りの中で送っていただいた学校紹介と写真は下記の通りである(フィリピン中等教育は2013年以降、4年間のジュニアハイスクールと2年間のシニアハイスクールからなる(森, 2018))。今回の取材対象校は後者の想定であったが、次頁の写真をみると、前者(=日本でいう中学生)をふくんだ中等教育学校的なものかもしれない)。なお、左記は同校校

章であり、DepEDはフィリピン政府省(Department of Education <https://www.deped.gov.ph/>)の略称である

【フィリピン・ミンダナオ島 グアダルーペの聖母公立高校の紹介】 Our Lady of Guadalupe National High School (Formerly: Baculin National High School) is situated at Baculin, Baganga, Davao Oriental, Philippines which is a rural area. It is the farthest barangay from the Municipality of

Baganga. The main sources of livelihood are fishing and farming.

OLGNHS-Baculin has a population of 501 students. Students come to school by walking even from a far distance, others ride in motorcycles and tricycles with a fare of Php10.00 to Php20.00. There is electricity and the mode of communication is serviced by Globe Telecommunication. The school has internet connection through pre-paid data. During the first week of the School Year, the school will provide some school supplies to less fortunate students solicited from the teachers, alumni of the school, Non- government organizations and other companies. (DARLENE FERRANDO-PACATANG 先生記)



**【筆者試訳】** Our Lady of Guadalupe National High School(以前のバクリン公立高校)は田園地域であるフィリピンのダバオ・オリエンタル州バガンガ地方のバクリンにある。バガンガ自治体から最も遠いバラングイ(フィリピンの町と都市を形成する最小の自治単位)である。主に漁業と農業で生計をたてている。Our Lady of Guadalupe National High School の生徒数は 501人いる。生徒たちの中には遠くか

らでも歩いて通学する人もいる。他の生徒は 10 フィリピン・ペソ(およそ 20 円)から 20 フィリピン・ペソを支払いバイクや三輪車に乗ってくる。電気は通じており、通信モードはグローブ・テレコム(フィリピンのアヤラ財閥系大手通信企業)によって提供されている。学校はプリペイドデータを介してインターネットに接続されている。学校は学年度の最初の週に恵まれない生徒たちへ、教師、同窓生、非政府組織、企業から供与された学用品を提供する。

なお、この紹介文には記されていないが、本校のエンブレムの最下部に見える文字が学校の理念を表している。そこにあるのは、"Every Learner Matters"(学ぶ者全てが大切な存在である)の文言であり、FERRANDO-PACATANG 先生から届くメールにも、校名と共に "WhereEveryLearnerMatters" (学ぶ者全てが大切にされる学校)と必ず記されている。

### (3) 同校生徒の文房具入手・所持状況等調査

今回お伺いしたのは、まず下記の 3 項目である。

1. 生徒たちが普段筆箱の中に入れていた文房具の種類
2. 今持っていない文房具の中で特に欲しい文房具
3. 主要な文房具を持っている生徒の割合

それに対して以下の回答を頂戴できた。

**問 1 【生徒たちが普段筆箱の中に入れていた文房具の種類】** Usually, most of our students have only ball point pens in their bags. Some don't even have a pencil case. A few students would often borrow an extra pen from their classmates. However, there are a chosen few who have pencils, erasers, colored pencils, and color pens. Only 5 uses highlighter.

(試訳) 通常、ほとんどの生徒がボールペンのみを鞆の中に所持している。筆箱さえ持っていない生徒もいる。なかには、足りないペンを他の同級生から借りている生徒もいる。しかし、鉛筆、消しゴム、色鉛筆、カラーペンを持っている恵まれた生徒も数人はいる。蛍光ペンを使っているのは 5 人だけである。

**問 2 【今持っていない文房具の中で特に欲しい文房具】** Students should have pencil case where they can put their writing materials such as pencils, ball point pens and erasers. They also need writing papers, colored pencils, color pens, highlighters, scissors, glue, rulers, adhesives,

markers, construction & colored papers and bond papers.

(試訳) 生徒たちは鉛筆やボールペン、消しゴムなどを入れる筆箱が必要である。他にも、用紙、色鉛筆、カラーペン、蛍光ペン、はさみ、のり、定規、接着剤、マーカー、画用紙、色画用紙、ボンド紙も必要である。

### 問 3. 【主要な文房具を持っている生徒の割合】

鉛筆	20%
ボールペン	95%
色鉛筆	5%
カラーペン	5%
消しゴム	10%
定規	8%
蛍光ペン	1%
ノート	100%
はさみ	25%
のり	10%

その後、以下のことについても追加のお伺いをした。

- |   |
|---|
| 4. 普段生徒たちはどこから文房具を入手しているのか。<br>5. 授業の黒板の様子や生徒の筆箱の写真を見せてほしい。 |
|---|

問 4 【普段生徒たちはどこから文房具を入手しているのか】 Usually, most of our students purchased their own school supplies, though it is limited. These stationeries are available in the barangay, though the supply is also limited. Others bought it at the Central District of the municipality which it

is almost 20 kilometers away from the school. The usual transportation is motorcycle in which they will pay Php150.00 for the round trip. Our students don't have the luxury to buy everything they need. They will just settle buying for the most needed ones. The rest, they will just rely on their classmates who have enough.

There were also less fortunate students who were given these stationeries during the start of classes. Yet, they are only selected depending on the availability of the items. Like, those who come early become the recipients of the stationery. These items are solicited from the sponsors, companies, individuals and alumni of the school.

As learners from a remote barangay, whose parents are mostly farmers and fishermen, they do not enjoy what other students enjoy in urban areas. However, even though the supply is limited, the interest and persistence to study does not waver among our students. They were able to surmount the challenges brought about by poverty.

(試訳) 通常、生徒のほとんどは、自分の学用品を自分で購入しますが、買えるものは限られています。これらの文房具は地元のバランガイで入手できますが、手に入るものは限られています。いっぽう他の生徒は学校から約 20Km 離れたこの地方自治体の中心地区で購入しています。通常交通手段はオートバイで、往復の交通費は 150 フィリピン・ペソ(約 323 円)です。生徒たちは必要なものを全て購入する余裕はありません。彼らは最も必要な物だけを買うことで事足りるとし、買えないものについては、文具をたくさん持っているクラスメイトたちを頼りにするしかないのです。

より恵まれない生徒に対しては、授業の開始時に文房具が与えられます。どんな品目が用意できるかに応じて、だれに渡せるかも限りがあり、同様に、早く教室に来る人が文房具をもらえるという制約もあります。これらの文具諸品目は、学校のスポンサー・企業・個人・卒業生などへの依頼によって集まった物です。

遠方のバランガイから来ている生徒の場合、その親の多くは農家や漁師ですが、この生徒たちは都市部の他の生徒と同じだけのものを享受できていません。

ただ、学用品の供給が限られているとはいえ、生徒たちの勉強に対する関心と粘り強さが揺らぐことはありません。生徒たちは、貧困によってもたらされた課題を克服することができているのです。

## 問5【授業の黒板の様子や生徒の筆箱の写真を見せてほしい。】

With the pandemic brought about by Covid 19, the Department of Education, still continues its plan to open its classes this August 24, 2020. But, there will be no face-to-face classes yet. In our school, since we cannot do it online because the students have no gadgets such as smartphones, tablets or laptops, we opted for modular classes.

Modules will be reproduced and will be delivered to our students' homes. This will be a distant learning. So, for the pictures of actual scenario, it would be impossible for me to send pictures. But I can send pictures of the previous scenario but limited emphasis on the stationery used. These pictures are taken during my class observations.

(仮訳) Covid19によってパンデミックがもたらされた今でも、2020年8月24日に授業を開講するという教育省の計画は変わっていません。しかしその場合でも、対面式の授業はまだできないでしょう。いっぽう私たちの学校では、生徒がスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンなどの機器を持っておらずオンラインで(授業を)行うこともできないため、本校ではモジュール式の授業(\*)を選択しました。モジュール教材は複写されて生徒の家に届けられます。これもひとつの遠隔型の学習方式なのです。

ですので、(授業の黒板の様子や生徒の筆箱の写真を見せてほしいという)ご要望どおりの写真をお送りすることはできないのです。しかし、以前いただいた(生徒たちが普段筆箱の中に入れていた文房具の種類という)ご要望の写真ならばお送りすることができます。ただあいにく、どんな文房具が使用されているかに重点を置いて撮ったものではありません。なおこれらの写真は私のクラスの観察記録として撮影してあったものです。

\*筆者注記:

1) このmodular classesの具体的方法の細部は不明だが、オンラインではない方法の自習教育方式としてフィリピン教育省がテレビ授業・ラジオ授業などとともに提唱しているものである。各学校に届けられる教材プリントがコピーされて生徒に届く方式で、アクセスが可能な場合は同じものがオンラインでも利用できる。以下のURLは2020.7.1付の同省によるアナウンス:

<https://www.deped.gov.ph/2020/07/02/deped-prepares-self-learning-modules-for-educations-new-normal/>

2) なお新型コロナウイルス感染症(Covid19)拡大の影響で同校では本年は卒業式もオンラインで実施されたく、その様子が動画投稿サイトで公開されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=cNJqprg3eU>

動画のタイトルにあるOLGNHSはこの学校の略称である。



## ■同校から提供された写真

(学用品の展示ブースやその前での貸与・授与の風景か。右下は、各種サイズのコピー用紙)



\*

これらの結果より以下のことが考察できる。

【文房具の使用状況】まず、勉強をする場において何よりも必要なものは、書く物と記録する物である。筆記具とノートの所持率が9割以上であることに対し、その他の文房具が25%以下とかなり下がることよりもこれさえあれば学習は成立することが証明される。鉛筆よりもボールペンの方が使用率が高いことについては、鉛筆を使用するためには鉛筆を削るための道具と労力が



必要となることが理由であると考えた。また、多くの生徒が筆箱を使用していないが、それは必要がないからではなく所持していないからであることが伺える。筆箱を使用するという事は複数の文房具を持っていることが前提であるだろう。また、デジタル機器を生徒たちが持っていないことから、日本で近年普及しつつあるデジタル文房具が使用されるのはまだかなり先であると考えられる。

**【推測される背景事情】** 全員が文房具不足というわけではなく、生徒の中でもかなり格差があることが伺える。主に漁業や農業という第一次産業で生計を立てているが、近年フィリピンのダバオは経済が著しく成長している。というのも、ダバオは綺麗な海や歴史的建造物があり観光客数が増加していたり、他にも天然ガスや石油、銅、金、アルミニウムなど豊富な天然資源が眠っており、未開発資源の価値は1兆円に達すると言われている。いち早くこのような職種に従事している家庭は比較的裕福であるのではないかと考えられる。

**【得られた知見】** 恵まれている生徒と恵まれていない生徒を隔てることなく補い合っていることに生徒たちの協力性が見える。学校での勉強は学友と共に成長することも大切なことであると思う。彼らはそれを体現しているように見える。貧困を原因に学ぶことを妨げないように他国からの寄付の他にも企業や卒業生も寄付を行っていて、まさに"Every Learner Matters"であると感じた。

**【ここから予想できる将来の状況】** 勉強に必要な最低限の文房具であるノートと筆記具が揃っているため、次に求められる文房具はより学びをやりやすくするためのものであろう。高校生ということもあり、工作をする機会もそこまで多くはないと思うので、次はカラーペンが求められていくのではないかと考える。実際に写真からもノートに絵を書いていたりと周りと異なる、ノートに個性を持たせることができる絵を書いていることが読み取れる。だがしかし、新型感染症が流行っている今、それよりもオンラインで学習できる環境を設置する方が優先されるような気もする。カラーペンの普及率が5%とというのともあり、ほぼ全員がこれらを手にするようになるのにはまだ時間がかかるだろう。

### 3. 日本の状況：大学生への試行的調査より

日本は先進国と呼ばれていて、文房具が手に入らず困るということはあまりないのかもしれない。しかし、比較によって見えてくるものがあるはずである。よって、試行的な調査として、同じ質問を日本の女子大生15人(われわれ文具ゼミ生)に対して行ってみた。

### 問1. 【普段筆箱の中に入れている文房具の種類】

シャープペンシルや消しゴムなどの定番のものから、中には筆ペンや万年筆まで持ち歩いている人もいた。シャープペンシル、消しゴム、黒ボールペンは90%以上の人が持ち歩いており、また、半分以上の人がカラーペン、定規、修正テープ(ペン)を、30%以上の人が付箋までも持ち歩いている。そして平均7種類の物を筆箱に入れているという結果が出た。

### 問2. 【今持っていない文房具の中で特に欲しい文房具】

およそ半分の人が未回答および特になしと答えた。回答者の中ではガラスペンや万年筆などの実用的ではないが高価でオシャレな文房具、コンパクトなはさみや大きめの付箋など日頃持っている文房具よりもさらに付加価値の加わった文房具を求めている。

### 問3. 【主要な文房具を持っている生徒の割合】

鉛筆	93%
ボールペン	100%
色鉛筆	60%
カラーペン	87%
消しゴム	100%
定規	87%
蛍光ペン	73%
ノート	100%
はさみ	93%
のり	80%

\*

これらの結果より以下のことが考察できる。

フィリピンの生徒がボールペンのみを持ってきているのに対して、平均7種類以上と必要最低限以上の物を持ち歩いていることがわかる。今回は調査範囲がかなり狭いということもあるが、日本の学生は特に文房具に不自由していないことがわかる。なので、特に欲しい文房具がなかつ

たり、あったとしても嗜好品やより便利なものを求めている。

色鉛筆や蛍光ペンは所持率が他の物に対して低くなっているが、買えないというわけではなく必要としていないのだろうと思う。線を引くのならカラーペンで良く、絵を描くことも大学生になるとあまりないので色鉛筆も使わないであろう。小学生に対してだと結果はかなり変わるだろう。だが、学習をするという点では代用が可能な色鉛筆や蛍光ペンの優先順位はかなり下がるようだ。

#### 4. おわりに

今回のこの結果により、我々が本来学習の場において文房具にどのような機能を求めているのかを知ることができる。やはりなによりも授業を留めておくという意味での筆記具と紙が1番大切である。これさえあれば学習は成り立つと言っても過言ではなと思う。その他の文房具は学習をより円滑に進めるための道具であるに過ぎない。そしてより便利な文房具を未だに開発し続けているのだろう。普段文房具を当たり前のように使っていると気が付かなかったが、文房具のほとんどは勉学を補助する物であるとわかった。文房具の優先順位はノート、筆記具と他の文房具ではかなり差があり、年齢によりかなり変わりそうではあるが、高校生以上では、はさみやカラーペン、定規が次ぐと今回の調査でわかった。筆記具に関しては国民性も関係しそうであるが、替え芯や削るという行為がいないボールペンから始まり、余裕がでてくると、消すことができる鉛筆やシャープペンシルを使用するようになるのではないかと思った。

#### 【謝辞】

- ・ NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン様
  - ・ 在ダバオ日本領事館西濱様
  - ・ Our Lady of Guadalupe National High School DARLENE FERRANDO-PACATANG 様
- このたびは、お忙しいところご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

#### 【参照】（本文中に示したものの以外）

森利枝（2018）「フィリピンの高等教育政策と国際通用性-2013年基礎教育拡大法のインパクト-」『大学評価・学位研究』第19号、2018年、pp.59-66 [https://niad.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=500&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=57](https://niad.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=500&item_no=1&page_id=13&block_id=57)

グローブ・テレコム概要:日本経済新聞(最終閲覧 2020年7月21日)

<https://r.nikkei.com/article/DGKKZO02986730Q6A530C1FFE000?s=5>

フィリピン、ダバオシティの可能性:スカパトサイト(最終閲覧 2020年8月11日)

<https://nextfutures.info/column/2019/10/>

#### ■本稿書誌情報■

---

#### 『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

---

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail [ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp)